

○第72回山陰精神神経学会

会期：2025年7月5日（土）9：55～17：00

会場：島根大学医学部臨床講義棟2階臨床大講堂

会長：稲垣正俊（島根大学医学部精神医学講座）

1. 機能的な高体温症に柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した1例

……山下智子，桑原翔大，宮崎洋佑，飯島慶郎，林 茉衣，三原靖葉，正岡 浩，伊藤 司，佐藤皓平，長濱道治，河野公範，林田麻衣子，岡崎四方，大舘孝治，和氣 玲，稲垣正俊（島根大学医学部精神医学講座）

機能的な高体温症（ストレス性高体温症，心因性発熱）は，原因がはっきりせず対応に難渋することがある．今回われわれは機能的な高体温症に柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した1例を経験したので報告した．症例は30歳代女性．X-5年より月経前の微熱で婦人科受診．ホルモン治療で改善なくX-3年総合診療科を紹介された．炎症反応陰性，精査にて器質因は否定的であった．しかし，熱は37～38℃で繰り返しX年12月当科で紹介された．3年間休職中だがストレスはないと話し，抑うつや不安の訴えなし．X+1年1月より柴胡加竜骨牡蛎湯を開始した．その後熱が出ない日が多くなり元気が出たとのことで，2月末に仕事を辞め，4月には再就職を考えていると笑顔で話した．機能的な高体温症については患者に寄り添った対応をしつつ柴胡加竜骨牡蛎湯もよい選択肢と思われた．なお，症例報告にあたり個人情報保護や匿名性に十分配慮し，発表および抄録の一般公開において本人に口頭および文書で承諾を得た．

2.

演題取り下げ

3. 自殺企図で児童思春期病棟に入院し，早期に情動安定化が得られた自閉スペクトラム症（ASD）の1例

……堀江友美子¹⁾，生田詩織²⁾，小松弘二¹⁾，山梨豪彦¹⁾，三浦明彦¹⁾，岩田正明¹⁾（1）鳥取大学医学部附属病院精神科，2）鳥取大学医学部附属病院脳とこころの医療センター）

過量服薬が疑われる場合，多くは総合病院の救急外来を受診するが，精神科の迅速な対応も求められる．今回，児童思春期

病床がスムーズな治療に有用であった1例を経験したので報告した．症例は10歳代男性．高校進学に伴う集団規模の変化や対人関係の負荷によりX-1年11月頃より不登校となり，近医精神科を受診．うつ病として薬剤治療が開始されるも症状が遅延していた．X年4月，睡眠薬過量服薬による自殺企図にて，当院へ救急搬送された．救急災害科で身体的異常がないことを確認した後，精神科児童思春期病棟へ入院となった．入院中の観察と心理検査により未診断であったASD特性が明らかとなった．定期的な多職種間での情報共有による本人へのかかわり方に対する検討，構造化された病棟環境，本人・家族の特性の理解により早期に情動の安定が得られた．なお，症例報告にあたり患者個人が特定されないように配慮し，発表と抄録の一般公開について本人と保護者に同意を得た．

4. 知的障害を伴う精神病性うつ病に対する治療の経験

……桑原翔大，長濱道治，宮崎洋佑，飯島慶郎，林 茉衣，三原靖葉，正岡 浩，伊藤 司，佐藤皓平，山下智子，河野公範，林田麻衣子，岡崎四方，大舘孝治，和氣 玲，稲垣正俊（島根大学医学部精神医学講座）

精神病性うつ病は，幻覚や妄想を伴い，薬物療法に加えて修正型電気けいれん療法（mECT）が有効とされる．しかし，知的障害を背景とする精神病性うつ病に対する治療指針は明確なものはないと思われる．今回，われわれは知的障害を伴う精神病性うつ病に対する治療を経験したので報告した．なお，症例報告にあたり個人情報保護や匿名性に十分配慮し，発表および抄録の一般公開において本人・代諾者に口頭で承諾を得た．症例は70歳代女性で，当院に2回の入院歴があるが，薬物療法に抵抗性を認めた．2回目の入院中にはmECTを施行した．不安を契機に3回目の入院となったが，入院後に妄想や興奮が出現し，増悪したためmECTを施行した．mECTにより一時的には精神症状が改善するものの，間もなく再燃したため再度mECTを施行した．知的障害が背景にあっても，薬物療法に抵抗性を認める場合にはmECTは高い反応率を示す可能性があるが，効果が一時的であることが今後の課題となる．

受付日：2025年7月24日

受理日：2025年10月7日

doi：10.57369/pnj.26-034

5. 長期ひきこもり歴のある高齢患者の1症例

……………武本祥太郎, 松尾諒一, 山梨豪彦, 三浦明彦, 岩田正明
(鳥取大学医学部附属病院精神科)

高齢者の生活継続困難の背景には、身体疾患、認知機能、環境、発達特性などさまざまな背景が関与している場合があり、これらの見極めはしばしば困難である。今回、長期にわたりひきこもり生活を送っていた60歳代女性の1症例を経験したため報告した。患者は高校卒業後数年で離職し以後は就労歴がなく、ひきこもり生活であった。X-2年に心不全でA病院に入院後、せん妄が長引いたことを契機にB病院初診し、自閉スペクトラム症が疑われ、訪問看護などの地域支援が導入された。しかし、生活へのこだわりから自宅生活困難となり、X年当院に任意入院となった。入院後は内科的加療と生活環境の調整を経て退院した。なお、症例報告にあたり患者個人が特定されないように配慮し、発表と抄録の一般公開について本人に同意を得た。

6. 鳥取県におけるひきこもり支援の現状—ひきこもり者職場体験事業20年の経過から—

……………原田 豊, 浜田千登勢(鳥取県立精神保健福祉センター)

2002年度から、鳥取県単独事業「ひきこもりの社会参加支援事業」の1つとして「職場体験事業」が始まり20年が経過した。ひきこもり状態の者が、本人の症状や希望を尊重しながら、パン工場やパソコン作業、農園などの就労体験を、週1回1時間からでもはじめられる事業であり、現在は、とっとりひきこもり生活支援センターに委託されている。2004~2023年度の20年間に計136人が利用し、7割以上が就労(福祉的就労を含む)に至っている。2004~2013年の10年(前期)と2014~2023年の10年(後期)を比較すると、利用開始年齢では、30歳以上の者が、前期では22.6%だったのが後期では51.8%を占め、ひきこもり年数も、5年以上の者の割合が、前期の30.2%に対し後期では60.2%となっている。利用者の高齢化、ひきこもり期間の長期化の傾向がある。一方で、就労に至った者は、前期79.2%、後期77.5%と大きな変化はない。鳥取県におけるひきこもり者支援の現状を報告した。なお、報告は統計的な内容のみであり、個人の情報が特定されるものは含まない。利用者には、本事業開始時に、統計的な報告を行う説明を事前に行っている。

7. 鳥根大学医学部附属病院精神科における摂食障害に対する入院治療プログラムについて—患者・家族に向けた「説明書」を活用して—

……………長濱道治, 河野公範, 桑原翔大, 宮崎洋佑, 飯島慶郎, 林 茉衣, 三原靖葉, 正岡 浩, 伊藤 司, 佐藤皓平, 山下智子, 林田麻衣子, 岡崎四方, 大舘孝治, 和氣 玲, 稲垣正俊(鳥根大学医学部精神医学講座)

摂食障害は食行動の障害を特徴とする精神疾患であるが、近年は発症年齢の低下および高齢化がみられる。また、摂食障害は精神疾患のなかでも比較的高い死亡率を示す疾患であり、その原因の1つに自殺が挙げられる。すなわち、摂食障害に対する治療は、自殺予防にもつながる可能性がある。鳥根大学医学部附属病院精神科では、摂食障害に対する入院治療を行う前に、患者・家族に対して「説明書」を使用し、疾患や治療プログラムについて説明を行っている。これにより、患者・家族の摂食障害に対する理解を深め、入院治療の導入をスムーズに行うことが可能になると考えている。また、病棟スタッフの間で治療方針に対する共通認識をもつことによって、各スタッフが統一した対応ができるようになると考えている。なお、本発表は通常の臨床活動の報告であり、個別の情報を含まないため、個人の同意や研究倫理審査などは不要であるが、倫理的側面に十分配慮した。

8. 統合失調症とアルコール誘発性精神症との鑑別を要した1症例

……………宮崎洋佑, 大舘孝治, 桑原翔大, 飯島慶郎, 林 茉衣, 三原靖葉, 正岡 浩, 伊藤 司, 佐藤皓平, 山下智子, 長濱道治, 河野公範, 林田麻衣子, 岡崎四方, 和氣 玲, 稲垣正俊(鳥根大学医学部精神医学講座)

幻覚妄想状態で初発した患者において、アルコール多飲歴のある場合、統合失調症やアルコール誘発性精神症などが鑑別疾患として挙げられる。今回、アルコール多飲歴を有する患者が幻覚妄想状態で初発し、鑑別に難渋した1例を経験したため報告した。患者は40歳代の男性。X年3月中旬から憑依妄想、対話性幻聴を認めた。同年4月中旬より悪化したため当院救急外来を受診し、幻聴による行動化リスクが高く、同日当科へ医療保護入院となった。器質因は否定的であったが、アルコール多飲歴が判明した。統合失調症かアルコール誘発性精神症かの鑑別を要したが、幻聴や妄想の特徴から統合失調症と考えた。アリピプラゾールにより症状は軽減し、その後、持続性注射剤へ変更した。幻聴や妄想の内容を吟味することの重要性を学ぶことができた。なお、症例の報告にあたり個人情報保護や匿名性に十分配慮し、発表および抄録の一般公開において本人に口頭および文書で同意を得た。

9. 心理面接の導入によって現実適応が可能となった10歳代女性の1症例—夢や箱庭の変化に着目して—

……井上歩美, 高野由美子, 松浦和基, 三成 綾, 山下智子, 林田麻衣子, 大拙孝治, 和氣 玲, 稲垣正俊 (島根大学医学部精神医学講座)

心理面接において夢や箱庭を扱うことで言語表現には表れにくい患者の課題を把握できる場合がある。今回、われわれは夢や箱庭に表現される「イメージ」の変化とともに現実適応が可能となった症例について報告した。症例は、他の医療機関で軽度知的障害、自閉スペクトラム症の診断をされ、当院精神科では摂食障害の追加診断をされた10歳代女性である。主治医からの依頼で感情表出を目的に心理面接を導入した。面接のなかでは食べることへの恐怖・食べた後の落ち込みについて語られたが、支持的アプローチにより消失した。しかし、夢や箱庭からは患者の主体性の弱さと、それに伴う現実適応の難しさが示唆された。感情表出を促すかわりにより患者の主体的な行動が増え、夢や箱庭に表れるテーマに変化が生じ、復学が可能となった。なお、症例報告にあたり個人情報の保護や匿名性に十分配慮し、発表および抄録の一般公開において本人と保護者に口頭および文書で承諾を得た。

10. 未破裂脳動脈瘤合併例における反復経頭蓋磁気刺激療法の実施に関する検討

……井關大勝, 山梨豪彦, 岩田正明 (鳥取大学医学部附属病院精神科)

反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS) は治療抵抗性うつ病に対して有効な選択肢であり、磁気を用いるため非侵襲的で副作用が少ないとされるものの、身体合併症を有する患者における安全性の報告は限られている。症例は50歳代女性。薬物療法の効果が不十分のうつ病患者であり、rTMS 目的に他院より紹介となった。事前検査の過程で偶発的に11ミリ大の未破裂脳動脈瘤 (UCA) が発見され、rTMS 実施に伴って生じうる血圧上昇や、UCA の治療時期を先延ばしすることによるUCA の破裂リスクを考慮して実施について検討した過程を、文献的考察を加えて報告した。rTMS 普及に伴って同様のケースに遭遇することは増えると思われ、知見の蓄積が望まれる。なお、発表に際しては患者個人が特定されないように配慮し、抄録が一般公開される旨も含め患者本人より書面で同意を得た。

11. 月経前症候群を併存した双極Ⅰ型障害に対し、低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬が有効であった1例

……太田典子¹⁾, 宮本純子²⁾, 佐藤弘樹¹⁾, 金藤素子¹⁾, 森崎洋平¹⁾ (1) 島根県立中央病院精神神経科, 2) 島根県立中央病院産婦人科)

症例は10歳代女性。X-1年10月より多弁、気分高揚、易怒性、興味関心の亢進などの躁状態を認め、X年1月に当科初診となった。SNSで知り合った相手に送金するなど、乱費や過活動が著しくなり、同年3月に当科へ医療保護入院となった。双極Ⅰ型障害と診断し、抗精神病薬や気分安定薬にて治療を行うも、忍容性が乏しく十分に投与量を増やせず、月経開始の約1週間前に傾眠となり、月経終了後に躁状態となることを繰り返した。月経周期に関連した精神症状を認めることから産婦人科に相談したところ、月経前症候群 (PMS) の併存を診断された。低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬の開始後、月経前症状のみならず、躁状態も軽快し、少量のアリピプラゾールにて寛解を維持している。PMSは若年女性の躁状態に関与する可能性があり、鑑別が重要と考えられた。なお、症例報告にあたり個人情報保護に配慮し、発表と抄録の一般公開について本人と保護者に同意を得た。

12. 希死念慮を認めた軽度認知症に伴うせん妄と思われた高齢者の1症例

……長濱道治, 河野公範, 桑原翔大, 宮崎洋佑, 飯島慶郎, 林 茉衣, 三原靖葉, 正岡 浩, 伊藤 司, 佐藤皓平, 山下智子, 林田麻衣子, 岡崎四方, 大拙孝治, 和氣 玲, 稲垣正俊 (島根大学医学部精神医学講座)

本誌オープンアクセスに関する規程により、抄録掲載なし